



日仏交流160周年  
160<sup>e</sup> Anniversaire  
des relations  
franco-japonaises

文学/音楽 LITTÉRATURE / MUSIQUE

パスカル・キニャール - 博多かおる

PASCAL QUIGNARD - KAORU HAKATA

# 作家50年目の夜 LA SOIRÉE JUBILAIRE

ゴンクール賞受賞作家で、現代フランスを代表する作家、パスカル・キニャール氏と、文学者でピアニストの博多かおる氏（上智大学）をお迎えし、語りと2台ピアノによるコンサートを開催いたします。作家デビュー50年、70歳を機に企画された本コンサートでは、キニャール氏が書き下ろしの作品を朗読。バッハ、クーペラン、ハイドン、シューベルトから現代作曲家作品まで、時代を超えた音楽作品が、ステージを彩ります。文学と音楽の融合による新たな世界を、この機会にぜひおたのしみください。



©Martine Saada

パスカル・キニャール(朗読,ピアノ)



©Risa Fukazawa

博多かおる(歌,ピアノ)

## 長崎公演への寄稿

イギリス＝アメリカ空軍の爆撃により完全に破壊されたル・アーヴルの港で、わたしは子供時代を過ごした。福島を襲った巨大な波を思いながら、わたしは忘れられていた「マル・マレ」の儀式を2017年4月4日にル・アーヴルの港の古いカテドラルで蘇らせた。ル・アーヴルの漁師たちが行っていた「マル・マレ」の儀式は、1525年のある出来事に由来する。聖モールの日1月15日に、「不幸をもたらす波」がル・アーヴルの町全体をのみこんだ。以来、ノートル＝ダム・ド・グラス教会の信者たちは1月15日が来るたびに木のベンチや藁の椅子の上にのぼるのだった。足元を水が流れゆき、体の下で水の記憶が見えない波を立てるのを感じながら、水にさらわれた人々の魂のために祈るのだ。わたしはかつて京都と東京で博多かおるとコンサートを行ったことがあった。4月4日、すっかり暗くなったカテドラルの中で、内陣の闇に包まれ、わたしたちは二台のグランドピアノで素晴らしいコンサートを実現した。演奏後、ル・アーヴルと対をなすコンサートを長崎で1年後に行うことをわたしたちは誓った。(パスカル・キニャール)



日時 2018年5月16日(水)19:00開演  
Mercredi 16 mai, 19h00

会場 長崎大学文教キャンパス長崎創楽堂  
Nagasaki Sôgakudô (Bunkyo Campus, Universit  de Nagasaki)

入場料 一般2,000円 大学生以下1,000円  
G n ral 2.000 yens / Jeunes( tudiants compris) 1.000 yens

お申込み：長崎県音楽連盟 TEL/FAX 095-820-1081 Email nma@onyx.dti.ne.jp

主催：アンスティチュ・フランセ九州、長崎大学 長崎創楽堂 共催：長崎県音楽連盟

